

成果報告書

2025年 4月 7日

公益財団法人 乃村文化財団 理事長 渡辺 勝 様

貴財団の助成金事業についてご報告します。

助成区分	研究助成		
研究および教育普及活動の期間	2024年 4月 ～ 2025年 3月		
フリガナ	ワセダダイガク ソウゾリコウガクブ ケンチクガッカ ワタナベタイシケンキウシツ		
大学（研究室等）名 学会・博物館名	早稲田大学 創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室		
フリガナ	ワタナベ タイシ	職名	
代表者名	渡邊 大志	早稲田大学創造理工学部建築学科 准教授/建築家	
フリガナ	ヨシダ ノゾミ	職名	
担当者名	吉田 希	（渡邊大志研究室・修士1年）	
所在地	〒169-0072 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学55号館N棟805号室		
対象となる研究および教育普及活動の概要	【テーマ】	クロスオーバー・アーキテクチャ研究ー多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的実践ー	
	【目的】	本研究では、都市を部品の集合として捉え、小さなオブジェクトがスケールの違いを超えて建築や都市に直接コミットすることを提示します。そのための部品群（曖昧な立体）を開発し、その生産流通網を独自に立ち上げることで生み出される空間を実験的に構築していきます。今回はその部品群を展示する空間ディスプレイとその部品群で構成した展覧会、頒布会・ワークショップを実施します。ユーザーに曖昧な立体で構築された空間を実際に体験してもらい、「XoverProducts」の効果を検証することを目的とします。	
	【実施体制】	2020年度より、渡邊大志研究室内の大学院生を主体とした「デザイン編集部」を立ち上げ、活動の全体構成や建築部品の企画・製作を行います。デザイン編集部の下に学部生、留学生をむ大学院生が所属し、国内国外の技術や生産体系に着目したデザイン検討を行います。各国の建築家、専門家と協同したシンポジウムの企画、様々な分野の職人と協同した生産体系の確立を行います。	
	【実施方法】	本研究は①理論化②試作③実験的実践の3段階に加え、一連の活動を総括するデザインレビューとしての展覧会・頒布会・WSから行われます。①職人技術や新技術に関する研究を通してクロスオーバー・アーキテクチャとしての空間の理論を構築します。各地域特有の技術や素材に着目した調査を行い、部品開発における技術の転用を図ります。②試作では、協同する職人と共にデザイン検討を行います。③実験的実践では、一連の活動のレビューの機会、そして理論の実践の場として、国際WS、頒布会、展覧会を開催します。	
共同研究者等の有無	【成果と社会的効果】	本研究を通じて、人口減少時代の日本において、空き家などの建築ストックを活用・再生などの視点から建築と工業化の関係について、建築躯体ではなく部品の集積による空間構成の可能性を示します。少量生産を前提する「曖昧な立体」と独自の生産流通体系を作り出すことは、その他の社会的変容に柔軟に対応できる空間構成のシステム構築につながります。こうした空間的実践を展示するために、新たな空間のあり方を広く社会に提示します。	
	吉田希（修士1年 編集局長） 正岡彪翔（修士1年 副編集長） ゴンジェヒョン（修士1年） 増山朋華（修士1年） パミオシモネ（修士1年） 銭健一（学部4年） 荒井百音（学部4年） 市原優希（学部4年） 武野ゆずは（学部4年） 中崎東輝（学部4年） 高嶋翔宇（学部4年） ※2024年度の学年		
助成金額	50 万円	主な使途	展覧会開催費（ディスプレイ・広報・記録媒体・設営・什器製作費）

研究室名 学会・博物館名	早稲田大学 創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究ー多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践ー
【目的】 本研究の目的は、職人技術の転用と応用、また人口減少時代の日本において新たな建築のあり方を提示することです。都市や建築を部品の集合として捉え、生産流通体系や市場のあり方から建築と工業化の関係について考察することを背景としています。「クロスオーバー」の概念を国境、技術分野、生産体系、機能の4つの境界を横断するものと定義します。異なる素材の組み合わせや、部品同士の掛け合わせにより機能が展開する部品群による新たな空間構成を模索します。1つの部品が複数の展開性を持つ部品群を開発し、その生産・流通網を独自に立ち上げます。生産体系の確立の中では、職人技術や伝統技術に着目し、技術の分野を横断したものづくりの可能性や、職人同士を横断したものづくりの可能性に着目します。生産体系に基づいた生活部品群を職人と協同で開発し、多機能な部品の集積による空間を実践的に提示すると共に、ユーザーによる独自の空間創出を促すことを重要視しています。これにより、都市や人々の生活にスケールや境界を超えた空間を提供し、新たな生活様式を提示することを目標としています。そのため、具体的な実践として技術の転用による部品の提案と共に、デザインレビューの機会として各種のWS、シンポジウム、展覧会を開催します。部品群に用いられた技術に着目した展覧会、部品群で構成された空間設計を通して、活動全体の社会的効果を拡大します。	
【実施体制】 研究室内に設置した学生主体の編集部によって、部品群の開発や空間的实践の方針を決定します。編集部の基に留学生を含む研究室の全学生が所属し、部品群の開発に関する技術研究やデザイン検討を行います。 クロスオーバー・アーキテクチャ研究として、数々の展覧会、頒布会、シンポジウム、ワークショップを国内外で開催します。国際ワークショップではフィンランドの建築家マイユ・スオミ氏、アアルト大学、アアルト財団、地元の中学校と共同します。マイユ氏は環境建築家としての知見をもち、素材や植物との関係性の視点からサステナブルな建築空間としての可能性を提示します。これらのことを基本に、日本国内やフィンランドで展覧会、国際ワークショップを開催しました。各展覧会にて開発した部品の製作に協力して頂いた、木工製作所である森田木工所、陶磁器工房である竹堂園(有)、再生紙を取り扱う日本化工機材などをはじめとする職人や企業と協同し、引き続き部品の開発を行います。 以上の協力者、新規の協力者からのフィードバックを基に展覧会、頒布会や国際ワークショップでのシンポジウムを企画します。	
【実施方法】 本研究は①理論化②試作③実験的実践の3段階で行われます。この一連の流れに対するデザインレビューの機会としての展覧会、さらに今年度から頒布会・ワークショップを実施することで、ユーザーからのフィードバックをもとに効果の再検証を行いました。また研究内容を反映した展示空間を設計することで、建築という一つの分野に留まらないディスプレイ空間設計の可能性を実験的に実践しました。Xoverの理念から生み出された部品を用いた空間のあり方の提示と研究内容を反映させた展示空間の設計、さらには頒布会やワークショップといったユーザーが能動的な立場になることができる空間ディスプレイの実施を通じて、より一層充実した効果の検証を行いました。 プロダクト（部品）の製作、展示空間という実験的実践、それらに対するフィードバックを踏まえて効果の再検証を行うことで、当研究の目的である、「小さなオブジェクトがスケールの違いを超えて建築や都市に直接コミットできる部品群（曖昧な立体）」を開発し、その生産流通網を独自に立ち上げることで生み出される空間を実験的に構築していく手法をより確立できると考えます。	

研究室名 学会・博物館名	早稲田大学 創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究ー多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践ー

【研究・教育普及活動の成果】

複数の「曖昧な立体（部品）」のプロダクト化、それらの部品のアッセンブルによる空間的な実践を行うことで、研究室内に留まらない社会的普及の場を提供することとなります。展覧会を通して実践された「曖昧な立体（部品）」の開発や、部品を用いた空間構成は、新たな流通体系や空間・展示のあり方を生み、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の一連の実践の結果が社会に広く提示された結果となりました。建築と工業化の関係やその他の社会的変容に対して、柔軟に対応することができる、実践的な取り組み、空間構成、建築空間を構成するシステムの構築の一步となりました。展覧会什器をオリジナルデザインし、「曖昧な立体（部品）」と関連づけることで、新たな空間構成を提示することができました。多くの職人の方々をはじめとする協力者や、国境を超えた繋がりを「曖昧な立体（部品）」で構成された空間の中で生み出すことは、人口減少時代やポストコロナに対する新たな生活様式を提示することに繋がります。

今年度は以下の3つの社会的実践に取り組みました。

1.国内展覧会：8月に国内展覧会を開催しました。デザイン編集部が主導する材料や技術に関するリサーチを通し、部品の開発を行い、部品群で構成されたクロスオーバー・ルームを設計施工しました。組み換え可能なフレームで構成された空間に各部品が取り込まれ、ユーザーによって空間の特性や使い方を選ぶことのできる新たな生活様式を提示しました。

2.国際WS：8月にフィンランド、ヘルシンキ市内のアアルトスタジオにて国際ワークショップを開催し、開発部品「Earth Pod」（アースポッド）と関連したワークショップを企画し、また会場構成に、8月に使用した什器を用いて内部の庭園を設計施工しました。研究室で設計したフレームを用いて、マイユ・スオミ氏との協働のもと、2024年9月に開催したWSでは地元の中学生を招いた交流イベントを開催し、マイユ氏との初めてのコラボレーションの機会となりました。2025年6月に開催されるせたがやガーデニングフェアでは同氏との2回目のコラボレーションとして、敷地のサイズに拡張可能な庭園什器を製作します。

3.2025年度展覧会、ワークショップに向けた準備：9月に開催した国際WSの2回目の活動として、制作した拡張可能なフレーム什器に取り込むプロダクトの他、多数の新たな部品を開発しました。今までに協力してくれた職人や企業と制作した部品や、職人を横断する生産体系の横断の可能性など新たな活動方針を生み出すこととなりました。以上をもとに2025年5月にはじまる六本木ミッドタウンでの展覧会、2025年6月でのせたがやガーデニングフェア出展、2025年5月のXover Products展覧会の開催に向けて、多くの部品群の開発に取り組みます。

研究室名 学会・博物館名	早稲田大学 創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室
テーマ	クロスオーバー・アーキテクチャ研究ー多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践ー
【今後の成果の活用と活動の展開について】 今回の研究活動にて、開催した展覧会において、「曖昧な立体(部品)」に対するデザインレビューと、新たな流通体系によるレビューを得ることができました。 デザインレビューに関しては、社会の中で部品がどのように見られ、関心を寄せられているのかについて確認することができ、今後の「曖昧な立体(部品)」の開発の手助けになります。新たな流通体系については、デザイン企画、生産体系の確立、展覧会の開催という社会的な活動の企画運営、全てにおいて建築的な実践が伴い、分野や境界を横断した活動を行うことができました。今後の展覧会の中では、什器や展示空間、空間構成の提案にとどまらず、等身大の空間や研究室の他プロジェクトの中で部品群を展開させるなど、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の建築的な広がりを目指します。また、現在開発されている「曖昧な立体(部品)」同士を横断した使い方の考案や、同一部品の生産を多数の職人や企業と協働するなど、空間的实践と生産体系のどちらにも波及する運動となるように取り組みます。新たな部品を考えるなど、「クロスオーバー・アーキテクチャ」の理念をより建築的に実現していき、1つの運動となれるよう取り組んでいきます。具体的には、拡張するコンテナフレームを制作します。2025年6月のせたがやガーデニングフェア、5月に開催される六本木ミッドタウンでの展覧会では、フィンランドの女性建築家マイユ・スオミ氏との協働のもと、フレームをより実践的に都市に溶け込ませていく方策を探ります。継続的に新規プロダクトを開発しつつ、国境や年代などにかかわらず、社会にアプローチできるようなクロスオーバー・アーキテクチャとしてのあり方を実践的に研究します。	